

前置形容詞の配列順序の考察

A Study of the Ordering of Prenominal Adjectives

津 田 早 苗

序 論

英語における形容詞の限定用法において、名詞を修飾する形容詞が二つ以上ある時に、その順序は次の例の示すように、形容詞の種類によっておおむね決められている。

(1) big beautiful white wooden house

(1)' *white wooden beautiful big house¹

この順序に関して従来、意味的基準によって形容詞を分類し、その配列順序を説明しようとする方法と、統語的基準によって説明しようとする文法が提案されてきた。これらの二つの文法を比較検討するのがこの論文の目的である。

形容詞を主として意味の面から分類した文法の代表として「形容詞」² をとりあげ、統語論の面から分類した文法の代表として Zeno Vendler の *Adjectives and Nominalizations*³ をとりあげ、集めたデータにてらしてその妥当性を考察する。

第一章 意味的基準による形容詞の分類

「形容詞」において限定用法に用いられる形容詞は以下のように分類されている。⁴

- (i) 分類的形容詞 (classifying adjective)
- (ii) 特性記述形容詞 (characterizing adjective)
 - i) 制限的形容詞 (restricting adjective)
 - ii) 状態記述的形容詞 (state-describing adjective)
- (iii) 同定の形容詞 (identifying adjective)
 - i) 完全同定の形容詞 (fully identifying adjective)
 - ii) 不完全同定の形容詞 (partially identifying adjective)

1. Zeno Vendler, *Adjectives and Nominalizations: Papers on Formal Linguistics* 5. (The Hague, 1968) p.122.
 2. 安井稔, 秋山恰, 中村捷「現代の英文法 7 形容詞」(東京, 1976).
 3. Vendler (1968).
 4. 安井他 (1976), p.74.

(iv) 強意の形容詞 (intensifying adjective)

i) 名詞強意の形容詞 (noun-intensifying adjective)

ii) 限定詞強意の形容詞 (determiner-intensifying adjective)

以上の形容詞の分類は主として意味基準によるものでそれぞれの定義は次のように要約することができる。

(i) 分類的形容詞

主要語の名詞によってあらわされる概念の適用を一部の部分集合に限定する機能を持ち、主要語の名詞が持つ内在的意味特性に対して何ら制限を加えない。

〔例〕 rural policeman

English girls

criminal lawyers

これに対し、a drowsy policeman は、状態にあらわし、a tall man は、man を制限しているので分類的形容詞と区別されるとしている。

(ii) 特性記述形容詞

この形容詞は次の二つに分類される

i) 制限的形容詞

主要語の名詞によって示される対象物と直接的な関係は持たずその対象物が持つ一定の特徴的な面に限定を加えている。

〔例〕 a tall boy

a good knife

ii) 状態記述的形容詞

主要語の名詞が表わす対象物の状態を記述している。

〔例〕 a drowsy policemen

a hungry dog

an angry man

(iii) 同定の形容詞

i) 完全同定の形容詞

この形容詞は、対象物を唯一的に指定し、定限定詞とのみ共起することが指摘されている。

〔例〕 the same man

the very man

the last king

his first novel

ii) 不完全同定の形容詞

この形容詞は、対象物の部分的類似性を指摘するとされ、完全同定の形容詞とは異り定冠詞

とは共起しない。

- 〔例〕 a similar mistake
 an analogous fashion
 a synonymous reading

又、「形容詞」では、触れられてないが、同定の形容詞は、その意味から考えても比較級・最上級がふつう存在しないという統語上の共通点がある。

(Ⅳ) 強意の形容詞

i) 名詞強意の形容詞

主要語の名詞が持つ一定の意味特性を強める機能を持つ。

- 〔例〕 an utter incompetent
 a true poet
 a perfect ass
 an utter fool

ii) 限定詞強意の形容詞

主要語の名詞よりもむしろ限定詞と深いかかわり合いを持つ。

- 〔例〕 a certain / particular girl

以上が「形容詞」で述べられている前置形容詞の分類の大要である。更に、このような分類に基いて修飾の順序が次のように定義されている。

限定詞<同定の形容詞<特性記述形容詞<分類形容詞<名詞¹

上の形容詞の修飾順序が最終の提案であるのではなく、更に現在分詞を形容詞との関係、特性記述形容詞のより詳細な分類が述べられているがそれらに関しては後にとりあげる。

以上述べたように主として形容詞が意味的に基準によって分類されているが、意味的分類は単に意味の違いによって分類されるのではなく、やはりその意味的基準が統語的な性質を持っている時にその分類が意味があるといえる。この「形容詞」の分類も形容詞の配列順序という統語的な現象を説明しているので意味があるのだが、意味的基準のみで形容詞を分類するとどちらに分類しても良いという両方のクラスに属する形容詞をどのように分類するかについて決定的な基準がないように思われる。たとえば、a red apple の red は分類形容詞とも、熟しているという意味では状態記述的形容詞とも意味の上からはとれる。形容詞の分類の側にも何か統語的な証拠があれば更に良いと思われる。

第二章 統語的基準による形容詞の分類

統語的基準による形容詞の分類にも数多くの理論が存在するが、形容詞+名詞の形が本来はどのような形であったかを考え、その形によって形容詞を分類する方法をとった Zeno

1. 安井他 (1976), p.138.

Vendler の理論を、ここでは概観する。

Vendler は、形容詞の配列順序を考えるのに、形容詞+名詞をまず名詞句としてとらえ、名詞句の分析を行っている。¹ 彼は、名詞化の過程を大きく二つに分類し、一方を *proper nominalization* もう一つを *restrictive relative clause* と呼んでいる。*proper nominalization* というのは、大体、名詞句補文に相当し、彼は、主文の述語を *container* と呼びどのような名詞句をとるかを分類している。そして、*container* となる形容詞を後の形容詞の分類に活用している。名詞化の過程のもう一方の *restrictive relative clause* は、従来から言われてきたように、形容詞+名詞の由来する構造とされ、たとえば、*the red house* は、*the house which is red* から由来するとされている。

Vendler は、まず四種類の制限的形容詞節を示してそれぞれにあってはまる形容詞を A_1 から A_4 に分類する。

A_1 : AN-N wh... is A

A_2 : AN-whose N_m is A

A_3 : AN-whose [e(V_+)] is A

A_4 : AN-whose [e(V_-)] is A²

A_1 は、*Predicative Adjective* として後に更に細かく分類されるが、主語に密接に関係した形容詞、たとえば *a red apple*, *a wooden house*, *a hungry cat* の *red*, *wooden*, *hungry* 等である。

A_2 は、対になった形容詞があり、大きさ、長さ、重さ等をあらわす名詞と密接に関係している。具体的には次のような形容詞が含まれる。

big-little, large-small, long-short

*thick-thin, heavy-light, wide-narrow*³

又、 A_2 は次のフレームにもあてはまる形容詞である。

(I) AN-N wh... is A for N

[例] *Jumbo is small for an elephant.*⁴

A_1 が主語に密接に関係しているのに対して、 A_3 は動作に密接に関連している。いいかえ

1. 彼は、名詞句を (a) ~ (e) までの名詞句に分類している。

(a) NV_+ → *that* NV_+ ([例] *That he died surprized me*) pp. 35-36.

(b) NV_+ → *whether* NV_+ ([例] *whether he died puzzled me*) p. 36.

(c) S (some...) → n (wh...) ([例] *I know what he lost*) p. 38.

(d) NV_+ → N's ing + ([例] *John's having won the race surprized me*) p. 42.

(e) { NV → N's Vn ([例] *John's speech lasted for an hour*) p. 46.

{ NVD_A → N's AVn

{ $NiVNj$ → $Ni's Vn$ of Nj

2. Vendler (1968), p.100 (N_m は "measure"-nouns あらわし、e は彼の分類の (e)-nominal をあらわす)

3. Vendler (1968), p. 95.

4. Vendler (1968), p. 95.

れば、 A_3 は副詞から由来しているものが多いといえる。たとえば、*beautiful dancer* の *beautiful* は、「美人の踊り手」という意味の時には A_1 、「踊り方が美しい人」という意味の時には A_3 というようにその由来する構造によって区別される。

beautiful dancer $\left\{ \begin{array}{l} \text{dancer who is beautiful (A}_1\text{)} \\ \text{dancer who dances beautifully (A}_3\text{)}^1 \end{array} \right.$

A_3 に属する形容詞として、*fast runner*, *slow speaker*, *good dancer* の *fast*, *slow*, *good* などをあげている。

又、 A_3 に近いと考えられる形容詞に次のような形容詞があるとしている。

He is an utter fool

She is a mere child

He is a perfect idiot

It is the bare minimum

上の文は、形容詞を副詞にした次のような言いかえが可能であることが A_3 とされる理由である。

He is utterly a fool

She is merely a child

He is perfectly an idiot

It is barely the minimum ²

これらの形容詞に関しては、第三章で再びとりあげる。

A_4 は、最初に述べた構造の示すように、 A_3 と類似しているが、 A_3 が Vendler の名詞節の分類の (e)-nominal を主語にとるのに対して、 A_4 は (e)-nominal を目的語にとることができる。次の例文において *slow* は A_3 、*easy* は A_4 である。

[例] John's cooking is slow.

The solution of the problem is easy ³

A_4 に属するのは、*easy* の他に、*difficult*, *pleasant*, *unpleasant* 等がある。

A_5 を決定するのは次のフレームで例文もあわせて示す。

(V) AN N wh...is A to V+

He is an eager man to succeed ⁴

A_5 に含まれるのは、*ready*, *eager*, *anxious*, *willing* 等であるが、これらはあまり名詞の前にはおこらないとされている。

Vendler は、更に A_6 - A_9 の形容詞を分類するが、その分類は一つのフレームではなく二つ

1. Vendler (1968), p. 88.
2. Vendler (1968), p. 102.
3. Vendler (1968), p. 98.
4. Vendler (1968), p. 102.

以上のフレームを適用して分類される。

A₆ に属するのは, *clever, stupid, reasonable, nice, thoughtful, considerable, good* などで次のような文にあてはまる。

John is stupid to take that Job

It is stupid of John to take that job ¹

A₇-A₉ に属する形容詞は, 七つのフレームにあてはめて分類され次のような形容詞が分類されている。²

A₇ *possible, impossible*

A₈ *useful, profitable, necessary*

A₉ *probable, likely, certain*

前に述べた A₁ は更にそれぞれの特性によって, A_a-A_m-A_x に下位分類され,³最後に前置形容詞の配列準序が次のように提案されている。

A₉A₈...A₂A_xA_m...A_aN ⁴

勿論すべての形容詞を一度に持つ名詞は, 実際にはおこらないが彼はいくつかの実例を示し, 又, 等位接続詞で結ばれるのは同種類の形容詞であるとしている。

long₂ polish_b word

comfortable₄ upholstered_i brown_f mahogany_a chair

fast₃ red_f car

broad₂ and deep₂ blue_f river ⁵

以上が Vendler の理論の概略であるが, 次の章では, これまでに述べた二つの論文の結果をふまえていくつかの実際のデータにあたってみたい。

第三章 前置名詞修飾語に関する問題点

第一節 限定詞と形容詞

名詞句の最初におかれるのは限定詞であるが限定詞と一般の形容詞との関係に関しいくつかの実例をあげて考察する。

大部分の形容詞は, 定冠詞, 不定冠詞のどちらとも共起する。

(1) a permanent, very serious energy shortage

(*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p.10) ⁶

1. Vendler (1968), p. 103.
2. Vendler (1968), p. 105.
3. Vendler (1968), p. 120.
4. Vendler (1968), p. 128.
5. Vendler (1968), pp. 128-129.
6. データの引用文献に関しては, その例文のあとにその出典を示す。

- (2) the traditional parliamentary balance

(*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 13)

しかし、第一章でも述べたようにある種の形容詞は、定冠詞とのみ共起することが出来る。

- (3) the first emergency shipments of gas (*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 15)

- (4) the last anxious week (*Newsweek*, Nov. 15, 1976, p. 7)

- (5) the very end (*Newsweek*, Nov. 15, 1976, p. 7)

「形容詞」では、*first*, *very* のような形容詞を完全同定の形容詞と呼んでいることは前に述べた。これに対し Vendler は、形容詞を文の名詞化のされ方によって分類したり、名詞化された名詞句の述語の種類によって分類したりするので、*first*, *last*, *very* のよう限定的な用法しかないものは扱いにくいようである。Vendler の方法で分類するには、 A_1 のうちの1つか、 A_3 にいれるしかないであろうがどちらも適当であるとは思われない。このような場合は、Vendler のような分析は不都合である。

又、大抵の形容詞は、*any*, *another*, *all* 等の限定詞の後に来る。

- (6) any possible ridicule (T. Wilder, "Queens of France", p. 4)

- (7) another long-term trend (*Newsweek*, Feb. 28, 1977, p. 31)

- (8) all available evidence (*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 15)

同定の形容詞と同様に比較の変化形を持たない形容詞に次のような形容詞がある。

- (9) sheer necessity for survival (J. Condon, *Words, Words, Words*, p. 4)

- (10) certain essential characteristics (E. Hoffer, *The True Believer*, p. 1)

「形容詞」によれば、*sheer* は、名詞強意の形容詞であり、*certain* は、限定詞強意の形容詞である。Vendler は、*certain*, *sheer* などとはとりあげていないが、「形容詞」で強意の形容詞として分類されるものは、 A_3 に一番近いと述べていることは前に述べたが、Vendler の解釈の成立する場合と意味のかわる場合があるようである。たとえば、例文(10)の *certain* と副詞の *certainly* はあまり関係があるように思われないので Vendler の説明はあまり妥当ではないようである。

名詞の所有格や、形容詞の所有格は、大抵の場合限定詞の位置におこり、限定詞とは共起しないことは以前から指摘されている。

- (11) Mondale's across-the-board popularity with Democratic voters

(*Newsweek*, Nov. 15, 1976, p. 10)

- (12) our long and intense struggle for the Presidency

(*Newsweek*, Nov. 15, 1976, p. 9)

次のように代名詞の所有格と名詞が全体として所有格となることもある。

- (13) his government's projected 6.7 percent growth rate

(*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 12)

但し、主要語の名詞に密着した名詞の所有格は、限定詞の位置にではなく、その名詞のすぐ前におかれる。

(14) expensive children's shoes¹

上のような例の場合は、children's は形容詞と考えざるをえない。Vendler は、この二つの構造をその派生の仕方の説明している²が、「形容詞」の場合のように意味による分類だとこの二つの違いが説明しにくいであろう。³

限定詞の内の指示代名詞も形容詞の前におかれる。

(15) that nice young pretty thing (A. Huxley, *The Gioconda Smile*, p. 2)

限定詞に関する議論は、まだつくされていないが、ここでは形容詞との関連を述べるだけとした。

第二節 分詞と形容詞

動詞の現在分詞、過去分詞は、共に形容詞の用法があり、名詞を前から後からも修飾できるがここでは、the smiling girl, the frightened boy のように前から修飾する用法をとりあげ、他の形容詞との位置関係を検討する。

「形容詞」によると分詞は、特性記述形容詞のあとにおかれ名詞的形容詞⁴の前におかれる。「形容詞」においては分詞が一括して扱われているのに対し、Vendler は、その派生する過程の違いからこれらを別々に扱っている。しかし、彼はこれらを全く別個に分類しているのではなく、predicative adjective A_1 の一分類として分類している。

$$A_i : V_{ing}N_i \leftarrow N_i \text{ wh... } V+$$

$$A_j : V_{en}N_i \leftarrow N_i \text{ wh... is Ven - (by } N_j) \text{ }^5$$

A_i には、ing 形の語尾を持つものは勿論、ラテン語系の現在分詞 *vacant* 等も入り、 A_j には、規則、不規則変化の過去分詞に *abrupt* なども含まれる。

分詞の形容詞用法は従来の伝統文法においても関係代名詞の *copula* が省略されたものという説明がとられていたものだが、Vendler の説明は、そのままの流れをくんだものである。

Vendler の前述の形容詞の配制順序に従うと、

$$A_9A_8 \dots A_2A_xA_m \dots A_iA_j \dots A_aN$$

となり「形容詞」とは異り現在分詞と過去分詞は累積的に用いられることになる。単に語感から考えると Vendler の説の方が正しいようであるが、どちらの本にも実際の用例はなく、集

1. Vendler (1928), p. 114.
2. Vendler (1968), p. 114.
3. より複雑な修飾関係を持つ名詞句については議論を省略した。
cf. Quirk et al., (1972) pp. 917-921.
4. 名詞的形容詞とは、名詞から転化した形容詞が名詞を修飾するものである。
[例] a wooden box, the presidential refusal 「形容詞」 pp. 87-96.
5. Vendler (1968), pp. 117-118.

められたデータにもそのような例はないのでこれは今後の課題とする。

又, Vendler の分詞の深層構造は, 単純であるが実際はすべての分詞が彼の提案しているフレームで処理できるとは限らないように見える。たとえば,

- (1) a nauseating medieval atmosphere (*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 15)
 medieval atmosphere nauseates (someone)

のように考えられるが,

- (2) personal purchasing power (*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 15)

は, 上のような説明よりも, purchasing power を一つのまとまりとして説明しなければいけないようである。よって, 実際は, 分詞になる動詞が自動詞であるか, 他動詞であるか等に加えて, どの程度形容詞としての用法が確立しているかも, 考慮に入れる必要があるように思われる。

第三節 等位接続詞と形容詞

「形容詞」に次のような, 等位接続詞によって結ばれる形容詞に関する制限が述べられている。

『英語では, 等位接続詞によって連結される要素は同一の範ちゅうに属するものでなければならないのが通例である。しかし, 形容詞の場合には, さらに制限が厳しく, 同一の類に属するもの同士でなければ同じく形容詞であっても等位接続詞によって連結することはできない。逆に同一の類に属する形容詞は累積的 (cumulative) に用いることはできない。』

このような制限を守りかつ類の違う形容詞を等位接続詞で結ぶ必要のある時には, 別々の名詞句を接続詞で結ぶなどの工夫がみられるようである。

- (1) highness' most obedient servant and devoted subject
 (T. Wilder, "Queens of France", p. 16)

又, 明らかに上の制限に反する例もある。

- (2) the true and long-sought heir to the throne of France
 (T. Wilder, "Queens of France", p. 20)

上述の同一の類というのがどの程度の同一の類をあらわすかは更に検討を要する問題であるように思われる。

その他, *but*, *or* でつながれた形容詞は, *and* よりも制限がゆるやかだということが指摘されている。¹

1. R. Quirk, S. Greenbaum, G. Leech and S. Svartvik, *A Grammar of Contemporary English* (London, 1972), p. 919.

第四節 形容詞同志の配列順序

形容詞が累積的に用いられる時の配列順序に関して、統語的な面からは、詳細な順序を二章で示したが、意味的な基準による分析に関しては、更に前に述べた分類を細分しなければならない。

「形容詞」においては、特性記述形容詞を更に主観的形容詞、新旧をあらわす形容詞、色彩をあらわす形容詞に分類し、次のような順序を提案している。

同定の形容詞 < 強意の形容詞 < 主観的形容詞 < 新旧をあらわす形容詞 < 色彩形容詞 < 分詞 < 出所やスタイルをあらわす名詞的形容詞 < その他の名詞的形容詞 < 形容詞的用法の名詞 < 名詞¹

上の規則によると次のような語順が説明できる。

(1) a beautiful new green dress

(1)' *a green beautiful new dress

二章で述べたように Vendler は、これらの形容詞を、あてはまるフレーム・センテンスによって分類している。彼は、色彩をあらわす形容詞を A_f とし次のように定義している。

A_f : AN - N whose color is A

又、新旧をあらわす形容詞に関しては、 A_1 に属し対になっているという説明のみでフレームセンテンスは与えていない。又、 A_2 との区別もあまり明確にされていないが (II) のフレームには適合しないとしている。

形容詞が累積的に用いられると Vendler の分類が不必要に沢山の形容詞の種類を設定しているわけではないことが理解できる。

Vendler の理論は、意味の基準だけに基づく規則よりも、より客観的に判断でき、結果的に意味的に共通するものが同じ種類に属している点ですぐれているといえるが、ある形容詞を分類するのにいくつかのフレームにそう入しなくては分類できないという点で難解である。

実際のデータに関して、上に述べた理論に反するような用例は見られなかった。

第五節 その他の形容詞的表現

現在までにとりあげられなかった名詞の修飾語に、文や、副詞から由来するような表現が数多く見られた。以下にあげるのがその内のいくつかの例である。

(1) *more than enough* light for fine needlework

(*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 28)

(2) *energy-scarce* countries like South Korea and India

(*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 10)

1. 安井他 (1976), p. 144.

- (3) Mondale's across-the-board popularity with Democratic voters
(*Newsweek*, Nov. 15, 1976, p. 10)
- (4) their "mass-consumption, throwaway" habits
(*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 11)
- (5) a *paper-thin* parliamentary majority (*Newsweek*, Feb. 14, 1977, p. 1)
- (6) a *come-from-behind* scramble (*Newsweek*, Nov. 15, 1976, p. 9)

以上の例は、すべて口語的又は、独創性のある表現であまり一般性がない¹ことは、他の形容詞をこれらが同時に用いられていないことでもわかる。しかし、ハイフンでつながれた形容詞でもしばしば使われる語は、他の形容詞をも共起するようである。

- (7) its shadowy, ultra-rightwing secret agent, Yoshio Kadama
(*Newsweek*, Nov. 15, 1976, p. 9)

以上のような例は英語という言語の生産的な面を如実に示しているように思われる。これ等のうちで実際に辞書に形容詞として残されるものは少いかもかもしれないが、このような表現に関しても更に研究が必要である。

結 語

以上、名詞の前におかれる形容詞を、意味に基づく分類と統語論に基づく分類を比較検討しつつ、分析した。文法の記述は単に意味的な基礎だけでは不十分であり、又、統語的分類も意味的分析と一致してはじめて大きな説得力を持つといえる。ここに述べた形容詞の分類に関しては、両者がこまかい部分部分についていくつか異っていることが指摘されたが、今後より多くのデータをてらしあわせその理論の適否を検討する必要がある。

<参 考 文 献>

- Quirk, R, S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. *A Grammar of Contemporary English*. London, 1968.
- Vendler, Zeno. *Adjectives and Nominalization, Papers on Formal Linguistics 5*. The Hague, 1968.
- 安井稔, 秋山怜, 中村捷「現代の英文法 7 形容詞」東京, 1976.

<デ - タ>

- Newsweek*, Nov. 15, 1966 - Feb. 14, 1977.
- Condon, J. C., *Words, Words, Words....* Tokyo: Seibido, 1977.
- Huxley, Aldous, *The Gioconda Smile - A Play -*. Tokyo: Seibido, 1975.
- Wilder, Thornton, "Queens of France", *Modern American One-Actors*. Tokyo: kaibunsha, 1968.

1. このような構文に関して Quirk et al. (1972). pp. 902-903. に記述がみられる。